

事業者排出量削減報告書

住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	京都府京田辺市大住浜55番12号								
氏名 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	パナソニック エレクトロニックデバイス日東株式会社 代表取締役常務 山崎 康正								
事業者の主たる業種	オプトエレクトロニクスを主とする電子部品の製造、販売								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者 (大規模エネルギー使用事業者 (原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者 (大規模運送事業者 (トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上、鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者 (その他の温室効果ガスの大規模排出事業者 (二酸化炭素に換算して3,000トン以上))								
計画期間	平成20年 4月 ~ 平成23年 3月								
基本方針	ビジネススタイルのエコアイデアの推進 ・モノづくりの向上を図り、CO2排出量の削減、省資源、廃棄物の削減とリサイクル化、及び有害化学物質の適正管理と削減に取り組む。 ・全従業員が「LE (Love the Earth) 地球を愛する市民活動」を推進する。 ・国や地方自治体、及び地域社会が主催する活動・行事への協力・支援を通し社会貢献に努める。								
推進体制	環境保護推進委員会に省エネルギー部会を設置し、省エネルギーに係る共通課題の抽出と検討を行い省エネルギー活動を推進する。 環境マネジメントシステム名称 ISO14001 適用範囲 工場全体 取得年月日 平成10年1月10日								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	平成20~22年	オプト製造工程	成形工程の歩留まり、設備稼働率向上により電気使用量を削減する。						
	平成20~22年	施設部門	クリーンルーム以外の夜間の稼働停止により都市ガス使用量を削減する。						
	平成21年	施設部門	チラー更新により、電気使用量を削減する。						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度 (実績) (19) 年度 (二酸化炭素換算)	目標年度 (計画) (22) 年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度 (実績) (22) 年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)			
	A 事業所等排出区分	3,824.0 t	5,110.0 t	33.6 %	4,316.7 t	12.9 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	*1 3,824.0 t	*2 5,110.0 t	33.6 %	*4 4,316.7 t	12.9 %			
	実績に対する自己評価	当初の計画より生産高が減ったためにCO2排出量は目標を達成することは出来たが、平成22年に新製品が関係工場より移管されたため基準年度よりもCO2排出量は増加してしまっした。							
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	増減率 (計画)	報告年度 (実績)	増減率 (実績)		
	京田辺工場	二酸化炭素換算 生産高	105.634 t-CO2/億円	76.346 t-CO2/億円	-27.7 %	84.463 t-CO2/億円	-20.0 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
	実績に対する自己評価	当初の計画より生産高が減ったために目標の原単位を達成することは出来なかったが、上記の取組みにより20%削減することが出来た。							
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度 (計画)			報告年度 (実績)				
		取組量等			取組量等				
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	府内産の木材の利用	(利用量)	m ³	(削減量)	t	(利用量)	m ³	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t	(発電量)	kwh	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量)	t	(削減量)	t	(購入量)	t	(削減量)	t
	削減量等合計	*3 t			*5 t				
差引排出量		基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	増減率 (計画)	報告年度 (実績)	増減率 (実績)			
(排出合計-削減等合計)		*1 3,824.0 t	(+2)-(+3) 5,110.0 t	33.6 %	(+4)-(+5) 4,316.7 t	12.9 %			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	2010年6月21日、7月7日の環境省主催の「CO2削減/ライトダウンキャンペーン」に参加し、20時~22時の間、間接部門の消灯を実施した。2010年9月毎週金曜日に各職場毎に工場周辺の清掃活動を実施した。2010年4月よりエコキャップ活動推進。(ボリワケン11.7人分)								
特記事項	省エネ製品として、2011年2月より車載用T-OILセンサ (ハイブリッド+気筒休止で車の燃費改善) を製造開始。								

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標 (生産数量、延べ床面積、走行距離等) を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度 (計画)」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度 (実績)」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度 (1990年度) を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。